

(令和5年度)
学校自己評価書

園番号	園名
802	三笠保育園

802三笠保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 保 育 活 動 に 関 す る も の	(1) 保育 目標/計画	① 保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標「心身ともに健康で主体的に活動できる子どもの育成」を目指し、年間計画を作成し、教育活動の評価をする。 全職員が共通理解をし、具体的な取り組みに繋がる目標を設定する。 保護者アンケートを実施し教育活動の検証をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園目標を確認し、どのような保育を進めていくかなど(研究主題)を職員全員で検討し、取り組んだ。定期的に子どもの姿から保育を見直す機会を持つことで、反省、評価を行いながら進められた。 アンケート等を基に次年度に繋げらる具体的な案の提案を出すことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園目標や研究主題に基づいて子どもの園生活や遊びに目標達成できるように意識して取り組むことができたか。 保護者アンケートから教育、保育活動全般について具体的な良い評価していただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度にむけて、本年度の課題(年間行事など)を職員で話し合い、保護者子どもにとっての最善を考えて方向性をまとめ民間移管へのスムーズな引継ぎ、共同保育ができるようにしていく。
		② 保育計画の作成					
		③ 全体的な計画の編成					
		④ 保育活動の評価					
	(2) 保育 内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 園の研究主題「体そだて」を理解し、指導内容や環境の工夫を行い、資質の向上を図る。 日々の子どもの姿を捉え、発達に応じた環境構成や援助を明確にし、保育を行えるようにする。 振り返りを行い保育の工夫改善を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育内容や、0から5歳までつながった保育をするため、乳児・幼児が共通理解できるように会議を調整し時間の確保に努めた。 乳児保育について見直す機会を持ち、園全体で0歳から5歳までの繋がった保育のポイントを職員間で共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を基に、一人一人に応じた指導に努め、育ちに繋がる援助や保育を進めていたか。 定期的に保育の振り返りをし、遊びの一つ一つに目的を明らかにし成長に応じた保育ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に各年齢や園全体の取り組みの振り返りから、課題に対して、次年度の取り組みを具体化させたり、発達に応じた環境構成の工夫をしていく。 挨拶の大切さや必要性をさらに伝えていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を立て、職員全体が目的を持ち、行事に対して意味を知り、進めていく。 安全に留意し、子どもが感動でき、保護者にも毎日の保育内容が理解していただけるものを計画する。 行事を通して地域の方々との関りがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事毎に目的を明確にし、子どもの実態や興味のある内容を考えた。また、行事後は内容やねらい等を保護者に工夫して伝えた。 子ども達が生き生きと活動し、各年齢の育ちや、日常の取り組みを伝える場となった。 行事後は反省会を持った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事の計画時の目的に達せていたかどうかを 行事後の振り返り会議で確認しあった。 子ども達が生き生きとした表情で楽しく参加していた 保護者からの感想を直接やノート等で知らせていただけた 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事内容を再度見直し、日程や内容が子ども、保護者にとってより 充実し豊かなものになるよう、見直しをもって立案する。 地域の方に、広げていけるような活動を考えていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 家庭支援推進保育士を中心に置き、年間計画を立案し、職員の共通理解を促す。 一人一人の子どもや家庭の実態を把握し、どのような子どもに育てたいのかを明確にして、具体的な保育・教育内容を検討する。 職員の人権意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭支援推進保育士を中心として反戦・人権・不適切保育の取り組みを行い、保育者自身が人権意識や保育内容、子どもへのかかわり方について振り返りができた。 日々の生活の中の、様々な場面で命の大切さや、自分はかけがえのばい存在であることを伝えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が 子ども一人一人の思いを受け止めていく事を常に心がけることで、子ども達が、安心して、したい遊びを思い切り楽しみ、友達に優しく関わる姿が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取り組みを次年度に引き継ぎ、保育者自身の人権意識を意図し、子どもへの言葉かけや接し方など人権を尊重した関りをしていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導 (園児の豊かな人格 形成等)	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談を綿密に行い共通した指導を行う 一人一人をよく観察し、その子の特性を探る。 保護者の思いや願いを十分に聞き、寄り添い進める 適切に実態を把握し、必要な場合は連絡をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かな出来事や伝達事項は、朝礼や会議、会議ノートを通じて伝え、職員全体に周知することができた。 課題を保育者間で共通理解した。 相談ができやすい信頼関係を目指した。(気になる事があると、迅速な対応をした) 関係機関と連携をとりながら、必要な支援や援助を行うようにし、安定した園生活を送れるようにした。 登降園時に子どもや保護者に声をかけ、実態把握に努めた。 市や地域などと連携・共通理解し、迅速に対応できるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園での様子を出来事は、職員間で必ず共有した。(パート職員にも会議ノート・朝礼ノートを活用) 迅速な対応を行い、子どもや保護者の思いに寄り添い、園での関わり方について、今後の方向性を共有し進めていった 問題等が起こった時は園全体の問題として受け止め、必ず全体に周知し振り返るようにした 気になる実態については、複数の職員と確認をしたり保護者や関係機関との連携を迅速に対応したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者一人一人が、子どもの実態を把握したり細かな配慮をする努力を常に行うことが大切である。 不適切保育などが報道されていることに対して、重く受け止めて、会議を行った。また、業務や職員の心情に寄り添い保育の相談を行うなど、常にアンテナをはり、子どもたちの安全保育に努める。 引き継ぎ等を確実にし、園全体での情報を共有し、配慮が必要な子ども、保護者への適切な対応や 関係機関にも必要事項を伝えていく。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題 について	・対処方針や指導計画が明確である				
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている				
			・各学級の状況を園組織として共有できている				
			・保護者や地域と連携できている				
		・組織的に迅速に対応する体制をととのえていく。(連絡先がすぐわかるようにしておく)					
(6) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の園児の持っている力を十分に発揮して充実した生活が送れるようきめ細かな配慮をする。 一人一人に応じた支援計画を作成する。 家庭支援推進保育士、クラス担任、コーディネーターと連携し具体的な関わり方を共通理解する。 研修参加等から支援教育に関する理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で子どもが安心して過ごせるような環境づくりや子ども同士の繋がりが深まるような保育の工夫をしてきたことで、助け合ったり見守ったりなど、クラス全体の育ちへと繋がってきた。 個別の指導、支援計画を特別支援コーディネーターと共に作成し、必要な保育を行うことが出来た。 特別支援研修を園内で行った。(ミドル研修、特別支援教育コーディネーター) 特別支援担任とフリーの保育教育士で学期に1度は会議を計画し、保育について悩みを出し合った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に対しての関りや、クラス全体での取り組みについて、定期的や必要時に話し合う機会をもつことで、対応の仕方を確認できたり、改善すべき点を出し合ったり共有できた。 特別支援コーディネーターから発達の実態を把握し、その子に合った指導のありかたやクラス全体の指導方法・保護者支援の助言があったが、今後、工夫の必要が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、一人一人の発達や課題を捉える力をつけるために、研修等に参加にてスキルアップできるように、園全体で工夫する必要がある。 今までの工夫した関りが行えるよう具体的に伝えて次年度に繋げていく。 	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容						
	③ 指導方法の工夫改善						
	④ 家庭との連携						
	⑤ 関係機関との連携						

(令和5年度)
学校自己評価書

園番号	園名
802	三笠保育園

802三笠保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の取り組みや方針を周知し、話し合いの中で具体化していく。 子どもや家庭の実態や情報を職員間で共有する。 職員の公務文書の適正化をする。 様々な会議を効率的に進めていく。 職員との信頼関係を密にし、風通しの良い職場環境を作る。 保護者アンケートを実施し、次年度に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園教育目標、研究主題について共通理解を図り、目標に向かって進むことができた。 職員間の報告・連絡・相談を密にすることで、活動内容を把握し共有することができた。(迅速に行う事で良好な対応ができた)(園全体に報告が伝わる工夫を行った) 個々の面談を実施し、職場の人間関係作りの構築に努めた。 保護者アンケートの実施により、園の保育教育の成果と課題を明らかにすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保育目標への方向性が伝わり、職員がそれぞれの立場で、力を発揮し、園教育目標や研究主題を意識して、日々の保育にあたっていたか。(面談等のやりとりから把握する) クラス間の連携に十分対応できたか。 園の方針や取り組みが保護者に共有できていたか、アンケート結果から知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談をしっかりと行いながら教職員の信頼関係を築き、何でも話せる雰囲気作りに努める。 年齢の悩みは、全体で考えていける体制を作る 園評価アンケートから見えてきたものを分析し、さらに理解してもらえる工夫を考え、次年度に繋げていく。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題を中心に各種研修や園内研究、公開保育を行い、職員の資質向上に努める。 人権保育について学び、自らの意識を高めらるようにする。 園外研修に参加し、学んだことを伝え合い実際の場できかす。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題に基づき、子どもの姿を見取り保育の振り返りができた。 プレゼンテーションの形で、定期的に各クラスの取り組みを発表したことで、成果や課題がわかったり、園全体での共有ができた。 研修報告会で、学びの共有や自身の保育の振り返りができた。 県のアドバイザー公開保育を受けたことで乳児保育の見直しができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題を中心に計画的に会議をもち、子どもの発達や保育について話し合いができた。 保護者への啓発のためのドキュメントを作成することで、各クラスの取り組みに対して再確認できた。 時間的や人的に参加ができていく状態があった。 研修報告の工夫をおこなってきたが、短期的な報告の時間がとりにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、研修の報告・伝達の時間保障を確保したり、報告の仕方にも工夫をしたりしながら、共有し自らのスキルアップにも繋げる。 今までの三笠保育園での取り組みと成果がまとめられ、民間への移行がスムーズにできるようにする。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
		③ 園外の研修への積極的参加					
		④ 園外研修内容の報告や伝達					
		⑤ 研修成果の普及					
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全計画、防災計画を作成し、迅速かつ適切な対応ができるよう、緊急時の連絡体制を整える。 避難訓練の計画を立案し、様々な状況を想定して実施する。 防災会議をもち、職員間で意見を出し合うことで問題意識、危機感、対応策を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月避難訓練を実施し、防災会議をもつことで防災意識の高揚を図った。 防災だよりをだし、保護者への啓発に努めた。 職員が安全管理マニュアルの再確認することで、危機管理を各自もつことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の防災会議で、避難経路の確認や安全対策について話し合うだけでなく、様々な状況を考え、意見や課題をだすことで 職員の意識を高め合うことができた。 予告なしでの避難訓練を行うことで危機感をもったり、連携をとりながらの状況判断ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理として、様々な状態が想定されるので、今後も 避難の仕方、連携のとりにかただけでなく、非常食や引き渡し方等の広い範囲の内容で話し合いをもち、職員全体が理解し、判断出来るように努めていくことが重要である。
		② 防災計画の立案					
		③ 危機管理体制の整備					
		④ 安全指導の工夫改善					
		⑤ 家庭との連携					
		⑥ 関係機関との連携					
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者が、健康への意識を高められるような機会をもつ。 健康安全に必要な生活習慣や態度が身につくよう、指導に努める。 食育を通して、健康な体づくりを推進する アレルギー対応を見直し、安全な給食の提供を行う。 園児の健康管理及び感染防止体制を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、感染や疾病状況をボード等で保護者に知らせている。 推進だよりや掲示で基本的な生活習慣の自立を促した。 アレルギー会議を行い安全な提供ができた 保護者の様子を伺い必要な時は話を聴く機会をもつようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を自ら意識を持ちおこなえたか。 保護者とのコミュニケーションをとり環境把握をした上で、生活リズムがつくような働きかけを行った。 アレルギー食の確認を行っ 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から保護者とコミュニケーションをとり、子どもの健康安全について伝えていけるようにしていく。 健康と安全保育について職員間で話し合い、啓発活動を行う
		② 心のケアや健康相談の体制の整備					
③ 健康観察、健康管理能力の育成							
④ 関係機関との連携							
⑤ 昼食の衛生管理							
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会議を通して、中学校 小学校 ともども園等と情報を交換し 連携をとっていく。 保護者会活動が円滑に運営できるようする。 おたよりやドキュメンテーション、ホームページを通して園の様子の発信をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の様子を情報発信し、保護者や地域との連携に努めた。 児童館との交流できる機会を持ち、三笠保育園の情報を伝えた。(共同ホールの利用を充実させる・おたよりの配布等) 保護者会活動がスムーズに進められるように仲立ちとなっていった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流できる機会を逃さないようにし、少しずつ関わりをもてるようにした。 児童館とは、常に交流を意識し、情報交換にも努めた。 保護者会活動は、仲立ちすることで進められたが、今後の課題は残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の取り組みを伝えられる機会には、広報の具体化を図る。 民間移管の移行期間になるので、保護者会や代表者との仲立ちとなり、スムーズに進められるようにしていく。 	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ 保護者会の活性化						
	⑥ 地域との行事、会議等						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 遊具点検を毎月行う。 遊びの環境の見直しをする。 危険個所の把握と対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に園全体で環境整備を行い、常に園内を美しくするように努めていた。 職員が遊具点検を行う業務を行うことで危機管理意識を持つようにしていた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、随時 安全点検することで、危険個所を確認することができた。 修理の対応が自園でできない時は修繕 改善を課にお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、課と連携をとり、補修や、安全な保育環境作りに努める。職員で担当制をとり整備に努める。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理について職員が重要性を理解する。 研修に参加し職員の意識向上を図る。 個人情報の管理、保護の徹底して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いについて、具体的などのような事かを職員と話し合うことで、意識向上に繋がった。 各書類の扱い方を確認した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いや作業は事務所内で行い、管理の徹底を行った。 配布物がある時は、名前が外から見えないようにしたり名簿の扱いを工夫したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いを具体化し、新体制になっても引き継がれていくようにしていく。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						